

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPO法人ケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド(認知症対応型共同生活介護)
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7-50
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人も含めて皆さんが穏やかに落ち着いてのんびりと暮らせる施設作りを心がけている。利用者の残存能力を活かし、自立支援に向けた介護を目指している。利用者様、おひとりおひとりの思いを汲み取り、寄り添うケアを心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では有料老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護等、多数の介護事業所を運営している。毎月、法人で全体ミーティングを開催しており、認知症ケアなどの勉強会を実施したり、他の事業所の職員と情報交換をしたりするなど、職員のレベルアップに努めている。協力病院は内科、外科、整形外科、眼科、リハビリ科等があり、利用者は医療面で安心感がある。事業所では利用者の自由な時間を多く取り、一人ひとりが穏やかに生活することを大切考え支援するよう努めている。今後は利用者の生活を充実させるため、日常生活の中にリハビリを取り入れていくことを検討している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 21 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ひだまり

記入者(管理者)

氏名 施設長 永井 優子

評価完了日 26年2月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『ふつうのことをふつうに』の基本理念を事業所内に掲示し、毎日意識付けを行っている。理念についても、ミーティング等で復唱するようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念のほか、「ふつうのことをふつうに」というケア理念を作成している。月1回ミーティングや申し送り時に職員間で共有し、自宅での生活に近づけるよう努めている。事業所独自の理念は作成していない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域事業への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深められるよう努めている。地域の方にボランティアをお願いしている。</p> <p>(外部評価) 近見小学校の児童と交流したり、毎回運営推進会議に参加している民生委員を通して地域との交流が広がりつつある。地域の文化祭に利用者と一緒に参加したり、秋祭りには子ども神輿や獅子舞が事業所に立ち寄り、利用者との交流をしている。また、事業所で開催する夏祭りや年末のもちつき大会に地域住民を招待し、地域との交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 民生委員さんや地域の方たちと協力し、認知症の理解に努めている。また、認知症サポーター養成講座も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的開催し、現在の運営状況や情報収集に努め、サー ビスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、市担当者 の参加を得て開催しているが参加者の固定化が見られる。 議事録は会議次第にとどまり、会議内容が分かりにくく、 積極的な会議の開催までには至っていない。また、家族等 への周知や会議の情報を職員間で共有することができてい ない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 市町村・地域包括支援センター職員と協力し、連携を取り ながらサービスに活かしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は毎回運営推進会議に参加し、事業所の情報提供 を行い意見をもらっている。また、事業所の行事「誕生日 会」にも参加して事業所の様子を知ってもらうなど、協力 関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に利用者家族への説明を行い、重度の認知症の方の 為に、安全面を優先し玄関の施錠をやむを得ず行ってい る。 職員については、身体拘束についてのミーティングを定期的 に行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、月1回のミーティングで 確認したり、法人全体のミーティングに参加し、認知症や 身体拘束などの勉強会や話し合いをして、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。また、利用者の安全面を優先し て、玄関の自動ドアを手動にし、センサーを取り付け対応 している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の様子をしっかりとみて、異変が無いかどうかチェックしている。ミーティング時に虐待の防止について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において話し合いの場を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やそのご家族に説明し、理解をしてもらった上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の様子を電話や訪問された時に報告や説明をし、要望や意見を反映させている。 (外部評価) 面会時や電話で家族から意見や要望を聞いている。日々の生活の中で利用者から要望を聞くようにしている。毎月新聞を発行し、利用者一人ひとりの生活状況を記録し家族に郵送している。また、玄関に意見箱を設置して意見を出しやすい工夫をしている。	利用者や家族が意見を出せる機会づくりに努め、聞き取った内容は確実に記録して職員全員で共有し、出された意見を運営に反映できるような取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に1回のミーティングを行ない、職員の意見や提案を聞き、良いことは取り入れている。変更は申し送りノートに書き、実践している。 (外部評価) 申し送り時に管理者は職員からの疑問点や提案を聞いている。出された意見は管理者が対応し、解決できない内容については施設長が対応しており、できる限り対応するように努めている。また、認知症実践者・管理者研修の受講は業務扱いで受講することができ、経費も法人負担である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一生懸命努力しているものには、やりがいもてるよう、支援していきたいと思っている。希望の休みなども取り入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1回は、法人内で研修を行ない、施設外研修を受ける時は有休とし、安心して研修が受講できるよう配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会に参加したり、夏祭りなどの行事を通じて交流している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には気を配り、ご本人の要望をよく聞いて、信頼関係を構築している。認知症の心理的症状を積極的傾聴・観察により把握し、どのように対応すれば良いか検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面接で要望など、困っている事や心配事の内容をよくお聞きし、相談にのっている。初めは出来るだけ多く連絡を取るようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望をよく聞き、ニーズを把握した上で必要な支援を見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である高齢者の方を尊重し、生活を共にすることを基本理念に掲げて、役割分担を考え協働生活を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃からご家族の方に連絡を取り、協力出来るよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の方や友人、知人の面会を歓迎し、ご家族の協力が得られるよう努めている。 毎月、新聞の発行、報告にてお伝えしている。 (外部評価) 利用者は家族の協力を得て、知人に会いに出かけたり馴染みの場所へ出かけたりしている。誕生日に利用者の要望を聞き、馴染みの100円ショップや満願寺へお参りに行く等支援に努めている。また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と行事を一緒に開催しており、利用者同士の馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事への積極的な参加を促し、席の配慮・環境設定も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、ご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族より、生活歴や暮らしの希望をお伺いし、要望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 日常会話の中で利用者の思いや意向を聞き把握している。把握が困難な利用者には、家族から情報を聞き取り、生活歴や過去の記録等を参考にして、利用者本位のサービスが提供できるよう職員間で検討をしながら支援している。今後は、利用者へのレクリエーションを充実させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面談で生活歴をお伺いし、日々の会話の中で情報収集し、活かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックやご本人との会話、ご家族との相談により、生活リズムや体調の変化に配慮して、ご本人らしい暮らしができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者会や職員同士でのケアカンファレンスを月に1回は必ず行うようにし、希望や要望、質の向上を目指している。 (外部評価) カンファレンスには家族が同席して、利用者毎の担当職員、介護支援専門員等が意見を出し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。また、状態変化に応じてその都度見直しをしているが、アセスメントシートを簡略化し利用者一人ひとりの把握に努め、利用者がより良く過ごせるよう課題を検討するなど、サービス実施記録などを工夫することを望みたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア日誌や申し送りノートに気付いた事を細かく記入し、見直しの情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新たなニーズに対応出来るように、また困難な利用者にも支援が出来るように頑張っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深め、公民館や婦人会、民生委員とも協力して頑張っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回は定期受診を行ない、また体調不良時は、その都度 病院受診し、結果を家族に報告し、密な連絡に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族と話し合い、協力医をかかりつけ医 としている。協力病院には内科、外科、整形外科、眼科、 リハビリ科などの様々な診療科があり、職員が同行し定期 受診をしている。専門医への受診は、家族が同行してい る。歯科医は必要に応じて往診がある。また、受診内容は 家族に報告して情報を共有するなど、利用者は安心して医 療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員同士が情報交換し、介護職員にも指導している。 病状の変化や異変に気付くよう指導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の看護師や相談員とも連絡を密に取り合い、状態の変 化や情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の要望をよく聞き、事業所で対応出来る事は出来る 限り行ない、病院の医師からも病状の説明をして支援を 行っている。	
			(外部評価) 今までに事業所での看取りの経験はない。看取りに関する 指針を作成しており、利用者の身体状況に応じて、利用者 や家族に説明し意向を確認している。	看取りに関する指針を作成し、事業所では看取りを行 う方針であることから、入居時に指針に沿って、事業 所としてできることできないことを利用者や家族に説 明し安心して最期を迎えられるような取組みを期待し たい。また、職員全員が看取り支援を理解し勉強会を 重ねながら職員の不安解消に努めるなど、医療関係者 との協力体制を整備することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングや勉強会において応急手当の方法や誤嚥の対応を勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練や避難訓練等を定期的に行っており、地域の民生委員や近くの方にも協力してもらっている。	
			(外部評価) 年2回、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。業者による防火設備の点検や緊急通報装置の説明を受け、実際に使用し手順を確認している。今後は地域住民に参加を呼びかけ、合同の避難訓練を予定している。	訓練は消防署の協力を得て、実際に2階の非常口を使用して避難訓練を行い、専門的な意見をもらうことを望みたい。火災だけではなく、がけ崩れや地震等の様々な災害を想定した訓練を実施し、利用者が安心安全な生活が送れるよう職員全員の防災意識を高めることを期待したい。また、地域住民との協力体制を早急に整備し、実効性のある訓練となるような取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室は全て個室であり入浴も個人浴にて対応している。言葉掛けにも十分に注意し、プライバシーを守っている。	
			(外部評価) 排泄時の声かけやドアの開閉に職員は気を配り、利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。入浴支援は個別での対応をするなど、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう努めている。また、個人情報の取り扱いは、書面で同意を得て適切に使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員がすべてを決めてしまうのではなく、利用者にも決定してもらい、不安や心配事についてはよく聞き対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などを行ない、散歩やレクリエーション、お昼寝などは各個人に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴後の衣服の選択や要望があれば、化粧・理容、アロマオイルマッサージを提供している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に盛り付けをしたり、一緒に食事をしている。協働作業にて役割分担してもらっている。	
			(外部評価) 献立は委託先の管理栄養士が立て、調理されたものを職員が取りに行き、食事を提供している。状態に合わせてきざみ食の必要な利用者には、調理された物を事業所で職員が刻み配膳している。基本的に味付けやメニューなど利用者の希望に応じることができないが、行事食は利用者の希望に応じて事業所で手作りをしている。また、外食を取り入れたり、おやつに利用者の希望を取り入れて楽しんでいる。利用者は準備や後方付け、洗い物などできることを職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) それぞれの食欲に合わせて用意している。ケアチェック表に記入し、足りない事がないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が付いて口腔ケアを行ない、清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 今までの排泄パターンを見て考え、排泄の多い時間帯にトイレ誘導を行っている。早めに誘導するなど、少しでも失敗が少なくなるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 排泄パターンを把握し、昼夜を問わず利用者に声かけをしてトイレでの排泄を支援している。現在、オムツを使用している利用者はいない。利用者自身が行えることを見守りながら、できない動作のみ介助を行い、自立に向けた支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘症の利用者には、体操・腹部マッサージを行っており、毎朝ヤクルトなどの乳酸菌の入った飲料を飲んで頂いている。下剤を使用している方もおられる。それでも、排便がない場合は、浣腸を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴時間帯については、利用者の希望を尊重し入浴して頂いている。また、夕方に入浴介助をすることもある。皆様が均等に入れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として、希望を聞きながら入浴することができる。浴槽は3方向から介助が可能となっており、利用者の状態に合わせて安全に入浴することができる。また、利用者の希望に合わせて同性介助の対応を行い、脱衣場の温度等に気を配ながら一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 使い慣れた枕や布団を持ってきて頂いている利用者もいる。体調や身体機能に合わせて好きな時に横になって休めるよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を誰でも見れるところに置き、すぐに確認できるようにしている。また確実に飲み込むまでの見守りを行っており、服薬確認もケアチェック表で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔の話や経験、趣味を話してもらい、レクリエーションやお誕生日会に活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は1日に1回は、散歩を兼ねて外を歩くようにしている。遠い所はドライブや買い物の外出をしている。 (外部評価) 事業所は高台にあり、玄関を出ると急斜面で利用者の転倒の危険があるため日常的に散歩は行っていない。月2回程度、海沿いや市民の森公園、外食などに外出できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 週に1回はパンを買ったり、買い物に出掛けて好きな物を購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族さんに伝えて欲しい希望があれば職員が代行し、ご本人に代わって話ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が感じられる様に、季節の花を飾ったり、利用者さんの作品を貼ったりして楽しんでもらっている。 衛生管理にも努めている。	
			(外部評価) 壁には利用者と一緒につちぎり絵を飾り、季節感が感じられるよう工夫をしている。窓やカーテンの開閉や室温等の空調にも気を配り、利用者は気持ちよく過ごすことができる。また、感染症対策として手すりやトイレの消毒を行い、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個別に休める部屋があり、好きな時に使用できる。席は話の合う人の近くに座れるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談して、ご本人の好みに合う物を持ってきている。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコン、布団を常備している。利用者は好みの本や形見の品、使い慣れたタンスを持ち込み、落ち着いて穏やかに過ごすことができる。また、居室には日差しが差し込み温かく、心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりなど、リハビリが出来るように作られている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPO法人ケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド(認知症対応型共同生活介護)
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7-50
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人も含めて皆さんが穏やかに落ち着いてのんびりと暮らせる施設作りを心がけている。利用者の残存能力を活かし、自立支援に向けた介護を目指している。利用者様、おひとりおひとりの思いを汲み取り、寄り添うケアを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では有料老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護等、多数の介護事業所を運営している。毎月、法人で全体ミーティングを開催しており、認知症ケアなどの勉強会を実施したり、他の事業所の職員と情報交換をしたりするなど、職員のレベルアップに努めている。協力病院は内科、外科、整形外科、眼科、リハビリ科等があり、利用者は医療面で安心感がある。事業所では利用者の自由な時間を多く取り、一人ひとりが穏やかに生活することを大切考え支援するよう努めている。今後は利用者の生活を充実させるため、日常生活の中にリハビリを取り入れていくことを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏名 施設長 永井 優子

評価完了日 26 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『ふつうのことをふつうに』の基本理念を事業所内に掲示し、毎日意識付けを行っている。理念についても、ミーティング等で復唱するようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念のほか、「ふつうのことをふつうに」というケア理念を作成している。月1回ミーティングや申し送り時に職員間で共有し、自宅での生活に近づけるよう努めている。事業所独自の理念は作成していない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域事業への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深められるよう努めている。地域の方にボランティアをお願いしている。</p> <p>(外部評価) 近見小学校の児童と交流したり、毎回運営推進会議に参加している民生委員を通して地域との交流が広がりつつある。地域の文化祭に利用者と一緒に参加したり、秋祭りには子ども神輿や獅子舞が事業所に立ち寄り、利用者との交流をしている。また、事業所で開催する夏祭りや年末のもちつき大会に地域住民を招待し、地域との交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 民生委員さんや地域の方たちと協力し、認知症の理解に努めている。また、認知症サポーター養成講座も行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的を開催し、現在の運営状況や情報収集に努め、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、市担当者の参加を得て開催しているが参加者の固定化が見られる。議事録は会議次第にとどまり、会議内容が分かりにくく、積極的な会議の開催までには至っていない。また、家族等への周知や会議の情報を職員間で共有することができていない。	会議には、自治会長や地域の中心的な立場の方、家族を参加者に加え、議題を工夫して意見交換を行うなどを期待したい。また、議事録を整備し、参加できない家族や職員にもいつでも閲覧できるよう配慮することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村・地域包括支援センター職員と協力し、連携を取りながらサービスに活かしている。	
			(外部評価) 市担当者は毎回運営推進会議に参加し、事業所の情報提供を行い意見をもらっている。また、事業所の行事「誕生日会」にも参加して事業所の様子を知ってもらうなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居時に利用者家族への説明を行い、重度の認知症の方の為に、安全面を優先し玄関の施錠をやむを得ず行っている。 職員については、身体拘束についてのミーティングを定期的に行っている。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、月1回のミーティングで確認したり、法人全体のミーティングに参加し、認知症や身体拘束などの勉強会や話し合いをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者の安全面を優先して、玄関の自動ドアを手動にし、センサーを取り付け対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の様子をしっかりとみて、異変が無いかどうかチェックしている。ミーティング時に虐待の防止について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において話し合いの場を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やそのご家族に説明し、理解をしてもらった上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の様子を電話や訪問された時に報告や説明をし、要望や意見を反映させている。 (外部評価) 面会時や電話で家族から意見や要望を聞いている。日々の生活の中で利用者から要望を聞くようにしている。毎月新聞を発行し、利用者一人ひとりの生活状況を記録し家族に郵送している。また、玄関に意見箱を設置して意見を出しやすい工夫をしている。	利用者や家族が意見を出せる機会づくりに努め、聞き取った内容は確実に記録して職員全員で共有し、出された意見を運営に反映できるような取組みを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回のミーティングを行ない、職員の意見や提案を聞き、良いことは取り入れている。変更は申し送りノートに書き、実践している。</p> <p>(外部評価) 申し送り時に管理者は職員からの疑問点や提案を聞いている。出された意見は管理者が対応し、解決できない内容については施設長が対応しており、できる限り対応するように努めている。また、認知症実践者・管理者研修の受講は業務扱いで受講することができ、経費も法人負担である。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 一生懸命努力しているものには、やりがいもてるよう、支援していきたいと思っている。希望の休みなども取り入れている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 月に1回は、法人内で研修を行ない、施設外研修を受ける時は有休とし、安心して研修が受講できるよう配慮している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 勉強会に参加したり、夏祭りなどの行事を通じて交流している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用開始時には気を配り、ご本人の要望をよく聞いて、信頼関係を構築している。認知症の心理的症状を積極的傾聴・観察により把握し、どのように対応すれば良いか検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面接で要望など、困っている事や心配事の内容をよくお聞きし、相談にのっている。初めは出来るだけ多く連絡を取るようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望をよく聞き、ニーズを把握した上で必要な支援を見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である高齢者の方を尊重し、生活を共にすることを基本理念に掲げて、役割分担を考え協働生活を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃からご家族の方に連絡を取り、協力出来るよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の方や友人、知人の面会を歓迎し、ご家族の協力が得られるよう努めている。 毎月、新聞の発行、報告にてお伝えしている。 (外部評価) 利用者は家族の協力を得て、知人に会いに出かけたり馴染みの場所へ出かけたりしている。誕生日に利用者の要望を聞き、馴染みの100円ショップや満願寺へお参りに行く等支援に努めている。また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と行事を一緒に開催しており、利用者同士の馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事への積極的な参加を促し、席の配慮・環境設定も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、ご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族より、生活歴や暮らしの希望をお伺いし、要望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 日常会話の中で利用者の思いや意向を聞き把握している。把握が困難な利用者には、家族から情報を聞き取り、生活歴や過去の記録等を参考にして、利用者本位のサービスが提供できるよう職員間で検討をしながら支援している。今後は、利用者へのレクリエーションを充実させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面談で生活歴をお伺いし、日々の会話の中で情報収集し、活かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックやご本人との会話、ご家族との相談により、生活リズムや体調の変化に配慮して、ご本人らしい暮らしができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者会や職員同士でのケアカンファレンスを月に1回は必ず行うようにし、希望や要望、質の向上を目指している。	
			(外部評価) カンファレンスには家族が同席して、利用者毎の担当職員、介護支援専門員等が意見を出し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。また、状態変化に応じてその都度見直しをしているが、アセスメントシートを簡略化し利用者一人ひとりの把握に努め、利用者がより良く過ごせるよう課題を検討するなど、サービス実施記録などを工夫することを望みたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア日誌や申し送りノートに気付いた事を細かく記入し、見直しの情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新たなニーズに対応出来るように、また困難な利用者にも支援が出来るように頑張っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深め、公民館や婦人会、民生委員とも協力して頑張っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回は定期受診を行ない、また体調不良時は、その都度 病院受診し、結果を家族に報告し、密な連絡に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族と話し合い、協力医をかかりつけ医 としている。協力病院には内科、外科、整形外科、眼科、 リハビリ科などの様々な診療科があり、職員が同行し定期 受診をしている。専門医への受診は、家族が同行してい る。歯科医は必要に応じて往診がある。また、受診内容は 家族に報告して情報を共有するなど、利用者は安心して医 療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員同士が情報交換し、介護職員にも指導している。 病状の変化や異変に気付くよう指導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の看護師や相談員とも連絡を密に取り合い、状態の変 化や情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の要望をよく聞き、事業所で対応出来る事は出来る 限り行ない、病院の医師からも病状の説明をして支援を 行っている。	
			(外部評価) 今までに事業所での看取りの経験はない。看取りに関する 指針を作成しており、利用者の身体状況に応じて、利用者 や家族に説明し意向を確認している。	看取りに関する指針を作成し、事業所では看取りを行 う方針であることから、入居時に指針に沿って、事業 所としてできることできないことを利用者や家族に説 明し安心して最期を迎えられるような取組みを期待し たい。また、職員全員が看取り支援を理解し勉強会を 重ねながら職員の不安解消に努めるなど、医療関係者 との協力体制を整備することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングや勉強会において応急手当の方法や誤嚥の対応を勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練や避難訓練等を定期的に行っており、地域の民生委員や近くの方にも協力してもらっている。	
			(外部評価) 年2回、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。業者による防火設備の点検や緊急通報装置の説明を受け、実際に使用し手順を確認している。今後は地域住民に参加を呼びかけ、合同の避難訓練を予定している。	訓練は消防署の協力を得て、実際に2階の非常口を使用して避難訓練を行い、専門的な意見をもらうことを望みたい。火災だけではなく、がけ崩れや地震等の様々な災害を想定した訓練を実施し、利用者が安心安全な生活が送れるよう職員全員の防災意識を高めることを期待したい。また、地域住民との協力体制を早急に整備し、実効性のある訓練となるような取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室は全て個室であり入浴も個人浴にて対応している。言葉掛けにも十分に注意し、プライバシーを守っている。	
			(外部評価) 排泄時の声かけやドアの開閉に職員は気を配り、利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。入浴支援は個別での対応をするなど、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう努めている。また、個人情報の取り扱いは、書面で同意を得て適切に使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員がすべてを決めてしまうのではなく、利用者にも決定してもらい、不安や心配事についてはよく聞き対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などを行ない、散歩やレクリエーション、お昼寝などは各個人に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴後の衣服の選択や要望があれば、化粧・理容、アロマオイルマッサージを提供している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に盛り付けをしたり、一緒に食事をしている。協働作業にて役割分担してもらっている。	
			(外部評価) 献立は委託先の管理栄養士が立て、調理されたものを職員が取りに行き、食事を提供している。状態に合わせてきざみ食の必要な利用者には、調理された物を事業所で職員が刻み配膳している。基本的に味付けやメニューなど利用者の希望に応じることはできないが、行事食は利用者の希望に応じて事業所で手作りをしている。また、外食を取り入れたり、おやつに利用者の希望を取り入れて楽しんでいる。利用者は準備や後方付け、洗い物などできることを職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) それぞれの食欲に合わせて用意している。ケアチェック表に記入し、足りない事がないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が付いて口腔ケアを行ない、清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 今までの排泄パターンを見て考え、排泄の多い時間帯にトイレ誘導を行っている。早めに誘導するなど、少しでも失敗が少なくなるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 排泄パターンを把握し、昼夜を問わず利用者に声かけをしてトイレでの排泄を支援している。現在、オムツを使用している利用者はいない。利用者自身が行えることを見守りながら、できない動作のみ介助を行い、自立に向けた支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘症の利用者には、体操・腹部マッサージを行っており、毎朝ヤクルトなどの乳酸菌の入った飲料を飲んで頂いている。下剤を使用している方もおられる。それでも、排便がない場合は、浣腸を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴時間帯については、利用者の希望を尊重し入浴して頂いている。また、夕方に入浴介助をすることもある。皆様が均等に入れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として、希望を聞きながら入浴することができる。浴槽は3方向から介助が可能となっており、利用者の状態に合わせて安全に入浴することができる。また、利用者の希望に合わせて同性介助の対応を行い、脱衣場の温度等に気を配ながら一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 使い慣れた枕や布団を持ってきて頂いている利用者もいる。体調や身体機能に合わせて好きな時に横になって休めるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を誰でも見れるところに置き、すぐに確認できるようにしている。また確実に飲み込むまでの見守りを行っており、服薬確認もケアチェック表で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔の話や経験、趣味を話してもらい、レクリエーションやお誕生日会に活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は1日に1回は、散歩を兼ねて外を歩くようにしている。遠い所はドライブや買い物の外出をしている。 (外部評価) 事業所は高台にあり、玄関を出ると急斜面で利用者の転倒の危険があるため日常的に散歩は行っていない。月2回程度、海沿いや市民の森公園、外食などに外出できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 週に1回はパンを買ったり、買い物に出掛けて好きな物を購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族さんに伝えて欲しい希望があれば職員が代行し、ご本人に代わって話ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が感じられる様に、季節の花を飾ったり、利用者さんの作品を貼ったりして楽しんでもらっている。 衛生管理にも努めている。	
			(外部評価) 壁には利用者と一緒に作ったちぎり絵を飾り、季節感が感じられるよう工夫をしている。窓やカーテンの開閉や室温等の空調にも気を配り、利用者は気持ちよく過ごすことができる。また、感染症対策として手すりやトイレの消毒を行い、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個別に休める部屋があり、好きな時に使用できる。席は話の合う人の近くに座れるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談して、ご本人の好みに合う物を持ってきている。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコン、布団を常備している。利用者は好みの本や形見の品、使い慣れたタンスを持ち込み、落ち着いて穏やかに過ごすことができる。また、居室には日差しが差し込み温かく、心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりなど、リハビリが出来るように作られている。	